



万里一空

御津中学校 校長室だより
令和7年3月7日 No.6

第78回卒業証書授与式 式辞



式辞

春、弥生。ふと目をやれば、木々や草花はたくましく芽を吹き始め、新たな別れと出会いの季節が訪れたことを告げています。本日、この良き日にご来賓の皆様のご臨席を賜り、厳粛な中にも心温まる「第78回豊川市立御津中学校卒業証書授与式」が挙行できますことを高いところからではございますが、心から感謝申し上げます。

今卒業証書を授与されました卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。1組の安達蒼一郎君が、14,991番、4組の若林葵さんが、15,215番、それぞれの卒業証書には、あなただけの番号が記されています。第一回の卒業生から脈々と繋がっている番号です。本日あなたは78年の伝統を紡ぐ一人となりました。またこの番号は、卒業証書番号として永久に豊川市立御津中学校に保存されます。

「私は豊川市立御津中学校の卒業生です」と胸を張って言える人生を歩んでいってください。誇りをもって生きていってください。

今、私は「誇りをもって生きていってください」と言いました。では、具体的にどのように生きていったら誇りをもてるのでしょうか。

その答えを私は、「鬼滅の刃」から見つけました。

「鬼滅の刃 第4巻」炭次郎と善逸、伊之助が仲間となった時に宿に泊まり、その翌朝のことです。宿を立つ時にお世話になったおばあさんから「どんな時でも誇り高く生きてください」と言われます。伊之助がすかさず「どういう意味だ」と言います。あなたならどう答えますか。

炭次郎はこう答えます。

「自分の立場を気心と理解してその立場であることが恥ずかしくないように振る舞うことかな」と。

この時炭次郎は、15歳です。そうです。皆さんと同じ年頃です。立場には、父、母、子供のようにもって生まれた立場があります。もう一つ、年を重ねるごとに自分で得る、自分に与えられる立場というものもあります。自分で得た立場や、与えられた立場には大きな責任が伴います。しかも、立場が変わるたびに、責任は重くなります。つらく、苦しいことも増えていくでしょう。増えていくつらさ、苦しさを乗り越えて、その立場であることが恥ずかしくないように振る舞うことが、誇り高く生きることです。自分が、これまでの自分を乗り越えて、より強くなっていくのです。それこそが、生きる喜びです。成長とも言います。

今年度の入学式で、私は、「子どもで入学し大人で卒業する」と話しました。3年間ですっかり大人の振る舞いができるようになった皆さんは、今日から豊川市立御津中学校の卒業生です。その誇りを胸に、本当の意味でカッコいい大人になるべく、さらに磨きをかけていってください。

結びになりましたが、本日までご臨席いただきました豊川市教育委員会教育部次長兼学校教育課長はじめ来賓の皆様に御礼を申し上げるとともに、これまで本校の教育活動にご理解・ご協力いただいた保護者の皆様、地域の皆様に心より感謝申しあげ、私の式辞といたします。

令和7年 3月 7日

豊川市立御津中学校長 峯村 邦泰